

## 骨太方針 2026 の策定に向けて

2026 年4月 13 日

筒井 義信

永濱 利廣

南場 智子

若田部昌澄

今年の骨太方針は、高市内閣の初回であり、「責任ある積極財政」の具体的な内容や目指す姿を包括的に内外に示す機会。以下、「1.」に掲げる点を基本的な考え方として、「2.」の方針に沿って、簡潔で分かりやすく、メッセージ性のある内容にすることが重要。

**1. 骨太方針 2026 策定に当たっての基本的考え方**

- 我が国では、官民双方において、長年にわたり「未来への投資不足」が継続。主要先進国の経済政策の潮流として、市場に委ねるだけでは対応しきれない課題に対応するため、大規模かつ長期的な財政支出を伴う産業政策へのパラダイムシフトがみられる。
- 我が国においても、「責任ある積極財政」を柱に、必要な分野・範囲においては政府が一步前に出て、官民が手を携えて投資（様々なリスクを最小化する「危機管理投資」や先端技術を花開かせる「成長投資」）することや、民が投資を行うことに対するインセンティブの付与を通じ、「国内投資の促進」を徹底的にテコ入れするとともに、スタートアップ振興などによって我が国が世界有数の知的創造・イノベーションの拠点となることにより、日本の中長期的な成長力強化につなげ、「強い経済」を実現していく。
- そのため、政府予算の予見可能性と財政計画の信頼性を確保する観点から、予算の作り方を根本から改める。（経済の成長力強化と名目の経済規模の拡大にふさわしい予算編成への転換、必要な予算は可能な限り当初予算で措置、複数年度予算や長期的な基金による投資促進策、経済的・財政的効果の定量的な試算・検証を前提とした様々なリスクを最小化する危機管理投資やGDPの成長にも資する成長投資に係る「新たな投資枠」を創設。）
- 「責任ある積極財政」とは、将来世代が日本で働き、挑戦し、誇りを持って生きていくための基盤を、今の世代が責任を持って築く経済財政政策である。行財政改革を進めた上で、戦略的な財政出動を行っていく。その中で、金利や成長率等の不確実性を考慮しながら、世界的な金利上昇圧力など経済環境の構造変化を見据えた中期の財政計画を講じ、その進捗を毎年検証することを通じて、政府債務残高の対GDP比を安定的に引き下げ、財政の持続可能性を実現し、市場からの信認を確保していく。
- 中東情勢の緊迫化による日本経済への影響については、現時点で予断を許さない。引き続き、中東情勢が我が国の経済・物価に与える影響をきめ細かく分析し、必要な政策対応を、適切かつ機動的に行っていく。

## 2. 骨太方針の作成指針

今年の骨太方針は、近年増加傾向にある個別施策や事業の記載は抑制し、高市内閣の経済財政運営の方針を明確に示す、真に骨太なものにすべきである。

特に、今後、経済財政諮問会議で議論を行う、

- ・ 「責任ある積極財政」の目指す姿や具体策の明確化
- ・ 新たな政策アジェンダである「成長戦略」「社会保障と税の一体改革」「財政運営目標」など経済・財政・社会保障の全体俯瞰からの整理

をしっかりと明示していく必要がある。

これらを踏まえ、骨太方針の作成においては、簡潔で分かりやすく、メッセージ性のある内容にすることを基本原則とし、特に、以下の3つの点を重視して、記載してはどうか。

- 高市内閣の経済財政運営の方針を明確に打ち出していくため、施政方針演説等で掲げたキーワードを用いて重点的に記述していく。
- 高市内閣以前から政府・与党が掲げている施策については、継続性に配慮しつつ、現政権の考え方に沿った整理の下で、記述を見直していく。
- 施政方針演説などで包括的に触れている政策テーマについては、政策の大きな方向性や重要な政策変更を記載することとし、個別予算事業の記載は関連する閣議決定事項（政策パッケージ）に委ねることとする。その際、単に政策パッケージを引用・言及するのではなく、骨太方針の考え方・構成に沿って記載するよう、内容を精査すべき。

加えて、骨太方針の取りまとめ後も、骨太方針に込められた高市内閣の経済財政運営の考え方、いわゆる「サナエノミクス」が、国民や市場関係者を含む内外からの理解と共感を得ていくことが求められる。そのため、従来からの概要資料だけでなく、簡潔で分かりやすく、メッセージ性のある説明資料の作成、機動的・戦略的な広報の実施が必要。

(以上)